

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立萩原小学校	学校No.	21
-------	-----------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校では、『児童の優れた個性を伸ばし「美しい心と 夢と たくましく生きる力」を持つ萩原の子を育てる』を教育目標に、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざしている。福祉教育については、社会福祉への関心と理解を深め、さまざまな体験活動や交流を通して、「福祉の心」を育てることをねらいとした実践活動を行ってきた。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 『地域でのボランティア活動』
年2回行われる地域のチンドン祭りで、クリーンボランティア活動を行った。ごみを集めたり、ごみの分別を呼びかけたりして、地域の人と共に生きようとする態度や実践力を養った。

(2) 『地域行事への参加』
萬葉公園「ホタルの会」の方による「ホタルの学習会」を通して、ホタルについて学び、講師の方と共にホタルの幼虫の世話をするなど、地域の人々とよりよい人間関係を築こうとする心を育てた。6月には、小学校で鑑賞会が開かれた。

(3) 『お年寄りと交流』
1年生がお年寄りの方から昔遊びを教えていただいた。こま、あやとり、けん玉、お手玉、メンコ、竹とんぼなどで一緒に遊びながら楽しい時間を過ごした。お礼にメッセージ入りのお菓子をプレゼントした。思いやりや感謝の心を育てる有意義な活動であった。

(4) 5年生総合学習「ともに生きる」

① 福祉について考える
ガイダンスとして「福祉」に触れ、自分たちの興味や関心に応じて学習を進めた。児童が調べた概要は以下の通りである。

- ・手話 ・車いすの介助 ・白杖
- ・点字 ・盲導犬の生活と訓練
- ・点字ブロック など

② 『福祉実践教室』
福祉実践教室では、「車いす体験」「手話の体験」「点字の体験」を講師の先生をお招きし、体験活動を行った。体験を通して、体の不自由な人にどのように接していけばよいかを学び、その苦労や大変さを実感することができた。

③ 福祉と共生について考える
福祉実践教室での実体験を経て、児童たちはそれぞれのテーマをより追究していくことにした。調べ考えたことを児童相互に意見交換し、各児童が「自分にできる福祉」について追究、発表することができた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

さまざまな活動や体験を通して、いろいろな立場・状況の人がいることや、誰もが一人ではなく共に生きていることを実感できたと考える。このような活動を体験や知識で終わらせず、社会の一員として、社会のために行動していこうとする態度や意識を今後も継続して高めていきたい。



分別を呼びかける児童



けん玉を教わる児童



車いす体験をする児童

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立中島小学校	学校No.	22
-------	-----------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目標
お年寄り、体が不自由な方や地域の方との交流を通して、自分たちに何ができるかを考える
ことで、豊かな心を育成する。

(2) 計画
地元老人会のお年寄りとの交流、あいさつ運動、運動会や学習発表会へのお年寄りの招待、
各種募金活動、学校畑での栽培収穫活動など

(3) 推進体制
福祉推進委員会を組織し、具体的な活動の計画・立案等を検討して推進していく。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 福祉実践教室（6年生：6月）
6年生全員が、「車いす体験」「手話体験」「点字体験」を行った。また、車いすを使用している方や耳が聞こえない方、目が見えない方の話を実際に聞いて、福祉に関する意識を高めた。

(2) 例年特別養護老人ホームのお年寄りとの交流
施設を訪問して、運動会や手話を交えた歌を歌ったり、手紙やペンダントをプレゼントしたりする活動を行った。

(3) 地元老人会のお年寄りとの交流会（1年生：11月）
地元のお年寄りからコマまわしやけん玉、お手玉など昔ながらの遊びを教えてもらい、交流した。

(4) 募金活動（全校児童、保護者、教師：5月～3月）
緑の募金、赤い羽根共同募金を実施した。

(5) 学校畑での栽培収穫活動（全校児童、教師：4月～12月）
タマネギやジャガイモの苗植えや収穫を、地域の方の協力のもと、全学年で実施した。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

- ・ 6年生の児童が車いすの体験を行い、「車いすって、こんなに大変なんだ。」ということを実感することができた。また、手話や点字の体験も行ったので、体の不自由な方の苦労を十分に理解することができた。そして、体が不自由な方の話を聞き、福祉に関する意識を高めることができた。
- ・ 様々な体験学習を通して、体が不自由な方やお年よりは、生活するうえで多くの不便があることを理解することができた。また、多くの活動を通して思いやりの心が育ち、福祉への関心が着実に高まってきた。
- ・ 障害の有無や社会的弱者などへの偏見にとらわれず、人と人々が楽しく助け合って生活できるように、今後も積極的に交流活動に取り組んでいきたい。
- ・ タマネギやサツマイモの栽培収穫活動をペア学年、地域の方と取り組み、いろいろな交流をする中で自然と人との触れ合いを体験することができた。サツマイモの収穫体験では、大きなサツマイモを掘った子どもたちの笑顔と関わってくださった地域の方への感謝の気持ちを高めることができた。
- ・ これからも地域とのつながりを大切にして子供たちの豊かな心を育てていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋小学校	学校N o.	23
-------	-----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

【目 標】 社会福祉活動を体験することにより、社会福祉への関心を高め、進んで地域社会に奉仕しようとする心を育てる。

【計 画】 ①補助教材を用いて、車いす、手話など、福祉にかかわることについて学ぶ機会を設ける。
 ②①で学んだことを希望講座ごとに福祉実践教室で体験する。
 ③体験した内容を、他の体験活動をした児童と情報共有する。
 ④身体的不自由にかかわらず、人々が幸福で安定した生活を送るためにはどうすればいいか個々に調べ学習を行う。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

事前に調べ学習を行ったうえで福祉実践教室を行うことができた。
 調べたことでは分からないことを実体験を通じて学ぶことができた。今回は車いすやガイドヘルプ、点字の体験を行った。体験した内容が個々に違ったため、情報を共有する時間を5年生の授業において設定した。
 福祉実践教室で学んだことにとどまらず、人々が幸福で安定した生活を送るためにはどうしたらよいか調べ、学習端末を用いてレポートにまとめた。調べた内容は学習発表展で掲示し、学習の成果を全校や保護者に示すことができた。これらの取組により、福祉に対する関心を高めさせることができた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

福祉や不自由さを理解するために、体験をともなった学習をすることができ福祉実践教室はとてもよいものだった。すべての講座を児童たちはうけることができないため、実体験を通じてのみ得られる理解を共有することはどうしても難しくなってしまう。児童同士で体験した内容を共有するだけでなく、それを聞いた児童が感じた疑問を質問する機会を設ける必要があった。

来年度の福祉教育も今回の福祉実践の反省や児童の実態、世の中の変化を考慮した内容になるように、計画の見直しや修正を進めていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋南小学校	学校No.	24
-------	------------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み(目標・計画・推進体制)

(1)目標
本校は、「心身ともに健康で、確かな学力と豊かな心を持って、未来を拓く千南っ子を育てる。」を教育目標に日々の活動に取り組んでいる。豊かな心を持たせるために、6年生を中心にこのような目標を定めた。

(2)計画
①福祉実践教室 ②人権週間 ③ボランティア活動

2. 福祉教育の具体的活動の内容(活動の記録)

①福祉実践教室
福祉実践教室では、車いす体験、手話体験と高齢者疑似体験を行った。障害に関する貴重な話を聞くことができた。さらに、体験活動を通して福祉に対する理解を深め、自分たちにできることを考えるよい機会となった。



②人権週間
11月25日(月)に、毎年恒例の「せんなんのわ」を運動場に作った。「せんなんのわ」は全校児童が学年の壁を越えて、同じ誕生日の友達や誕生日に近い友達を知り、友達の輪を広げることが目的である。全校児童が誕生日順に並ぶことができ、大きな「せんなんのわ」を運動場いっぱいにつくることができた。友達一人一人を大切にし、いじめのない明るい学校にしていきたいという思いを強くもつことができた。



12月2日(月)には人権週間の取り組みとして、児童会役員主催の人権児童集会を行った。校長から「人権週間」について講話があり、その後児童会からのメッセージタイムが行われた。児童会役員による紙芝居の読み聞かせでは、一人一人かけがえのない命を大切にしていこうというメッセージを全校児童に伝えることができた。

③ボランティア活動
・一人一鉢運動
卒業式で6年生を送り出すパンジーロードを作るために、一人一鉢運動を行った。各学級でそれぞれプランターにパンジーを植える活動を行い、その後、各学級で朝の水やりを行った。



・校内奉仕活動
高学年にボランティアを募り、掃除の時間に校内美化にかかわる奉仕活動を行い、「公共」を意識させることができた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題
福祉教育にかかわる活動を通して、友達や自分の周りの人を大切にするということについて考えることができた。今後も、困っている人には自然に手を差し伸べ、優しい言葉がけができる温かな人間関係を学校全体にさらに広げていきたい。また、福祉や人権について関心を高め、具体的な実践が広がっていくような場面や機会を学校生活の中に多く取り入れていきたいと考える。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立富士小学校	学校No.	25
-------	-----------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（1）目標

- ・思いやりを深める活動を通して、人を思いやる心を育む。
- ・自分たちに何ができるかを考え、実践することで、豊かな心を育む。

（2）計画

【1】 人権週間の取り組み（11～12月・・・全学年）

【2】 福祉実践教室

【3】 思いやり運動

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

【1】 人権週間の取り組み

人権週間に合わせ、思いやり運動を行った。

① 人権擁護委員の方々をお招きした人権教室
低学年、高学年の二部制で行い、発達段階に応じたお話や動画の視聴を通して人権に関する意識を高めた。

② 人権啓発を目的とした、道徳や学活の授業実践

③ 人権に関する標語の作成
全児童が参加して思いやりに関する標語を作成した。校内で選ばれた「ありがとう みんなでつくる 笑顔の輪」を印字したクリアファイルを作成。思いやりの言葉を身近なものにできるようにした。

【2】 福祉実践教室
5年生を対象に、福祉実践教室を行った。本年度は、社会福祉協議会の職員の方と、SSWさんにご来校いただき、事前指導と事後指導もしていただいた。

【手話体験】 手話をするだけでなく、口の動きや表情の大切さ、相手のことを思いやったり想像したりすることの大切さを学ぶことができた。

【点字体験】 目が見えない人の気持ちになって考えてみることの大切さを学んだ。点字の難しさ、生活の大変さを感じることで、この先の福祉についての学びに対する意欲が高まった。

【ガイドヘルプ】 目が見えない人の立場になって案内される体験を通して、実際に目が見えない人の不安や困り感を知ることができた。

【3】 思いやり運動
児童会が中心となり、思いやり運動を行った。以前は、「思いやりある行動をしたら記録する」という活動を行っていたが、本年度は、「人に思いやりある行動をしたらもらったら記録する」という活動に変更した。その結果、本当に人のためになる行動を考えるとともに、自分の周りのあたたかい思いに気が付くきっかけとなった。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

人権週間や、思いやり運動など全校での声掛けを行うと、子どもたちは素直に反応し、ふわふわ言葉を意識したり、思いやりある行動を意識したりとよい変容を見せた。しかし、まだ、相手を思いやる心に欠ける行動や発言からトラブルになることもある。日頃の係活動や委員会活動、学級での活動など、学校の教育活動全体の中で、思いやりの心を育てることができるよう、取り組みを継続していく必要がある。



〈人権集会の様子〉



〈福祉実践教室の様子〉